

## まとめ（個人的見解）

### 授業におけるコミュニケーションを基底とした音声言語教育

#### 題材を学校生活内のものに限定すること

上谷　　どうもありがとうございました。以上6名の方に最後のコメントをいただきました。いろいろな提案や問題提起も出まして、これからまた議論を進めていければ、というのが実際のところですが、私司会としましてとにかく時間が来ましたので、これでこのセッションを閉めさせていただきたいと思います。皆様どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

私の「まとめ（個人的見解）」として、私自身の個人的な見解を簡単に一つ申し上げますと、今お話にも出ていましたけれども、いろいろ考えると授業というのはどのようなコミュニケーションの基で成り立っているのか、結局そこにいろいろな点に関係するのではないかと思います。そこで、先ほど甲斐睦朗さんのお話にもありましたけれども、やはり授業とか学校内とか、何かしら条件がいろいろあります。そういう教師と生徒の関係などどうしても避けられないいろいろな関係がある中で音声言語の指導をする、という不自然さをどうやったら解決できるかということを考えました。つまり、いろいろな日常のものを持ってくるというやり方もあるのですが、帰国子女などのように外から中に入ってくるという学校現場自体の変化もありますので、学校内のものを題材として話しことば、音声言語の指導を考えていった方がいいのではないかと思います。これを提案します。